

駒ヶ根市文化財

名称	旧伊那街道上穂沢川橋礎石
種別	歴史資料
指定	市・有形文化財(昭和 48. 5. 28)
所在地	赤穂小町屋如来寺敷地内
説明	<p>江戸時代、江戸日本橋を起点とした五街道(東海・中山・奥州・甲州・日光)が設定された。中山道(なかせんどう)は慶長 7 年(1602)に開設され、伊那街道はこれに対する脇往還(わきおうかん)で中山道の補助線であった。</p> <p>脇往還としての伊那街道は、中山道塩尻宿から分岐して南小野・宮木・松島・伊那部・上穂・飯島・片桐・大島・原町・飯田・駒場・波合・平谷・根羽の各宿駅を経て、豊橋・岡崎・名古屋に至っている。この街道は、名古屋方面まで「通し馬」で商品を運んだ。この街道のことを中馬(ちゅうま)街道と呼んだゆえんである。</p> <p>現在の国道は改修されて真直になっているが、福岡南幼稚園入口から北は小町屋如来寺の東側を通り、上穂沢川を渡って門屋前で現国道に合致する道筋が、慶安 2 年(1649)に設けられた伊那街道で当時の名残りを留めている。</p> <p>上穂沢川に橋がいつ頃造られたか記録にはないが、昭和 40 年代改修工事中、両岸から橋脚に用いられた自然石に深さ 11cm、直径 28cm の丸い穴 1 か所のある礎石 2 個と、他に深さ 11cm、直径 29cm 及び深さ 9cm、直径 18cm の並列した丸い穴のある礎石 1 個、直径 17cm、深さ 6mm、の穴が 35cm の間隔で 2 か所ある石の 1 個、併せて 4 個が発見された。(穴 1 か所の石 2 個、穴 2 か所の石 2 個、計 4 個)</p> <p>当時の伊那街道の橋場跡が確認されるとともに、明治 20 年(1887)三州街道(現国道)が、この道筋の西に開設されるまで使用されていたと推定され、往時の橋梁の構造上からも極めて貴重であり、如来寺境内下に大切に保存されている。</p>

